

イントラリポスとエネフリード



脂肪は、三大栄養素の中で最もエネルギー効率が良く、1gで9kcalのエネルギーを摂取することができます。このため栄養管理には必須の栄養素です。現在、脂肪を含んだ製剤には、脂肪乳剤イントラリポス、末梢静脈栄養輸液エネフリード、高カロリー輸液ミキシッド(当院採用なし)があります。今回は、イントラリポスとエネフリードの投与の注意点について解説します。

イントラリポス、エネフリード投与のポイント

①投与速度

◎0.1g/kg/hr以上かけてゆっくり投与する！

体重50kgの人：20%イントラリポス100mlを4時間で投与、エネフリード550mlは2時間で投与。
理由：急速投与は、①脂肪の代謝が追い付かなくなり脂質異常(高脂血症)②凝固能亢進による血栓症③停滞している脂肪が異物と認識され免疫機能が働き細菌などに対する免疫能の低下が挙げられます。

②投与方法の注意点

◎輸液フィルターより患者側から投与する

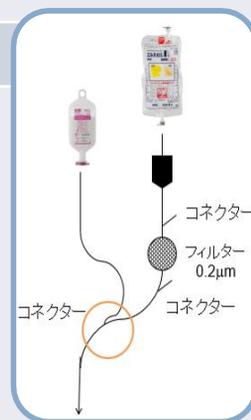
理由：脂肪滴はフィルターを通過することができず目詰まりを起こすためです。

◎投与中は他の薬剤の混注や側管投与はしない。

理由：薬剤の配合変化を起こすためです。
抗菌剤の側管投与もできません！

◎エネフリードはビタミンを配合しているため遮光が必要

理由：ビタミンA、B₁、B₂、B₁₂、C、Kなどは光により分解するため、エネフリードやビーフリードに含有されているビタミンB₁が失活しないようにするためです。



③感染対策

◎輸液セットは24時間毎に交換する

◎投与後に生食20mlにてフラッシュする(ヘパリンは使用しない)

→脂肪は細菌繁殖の温床になるため、感染対策は必須！



Q1側管から投与することは可能ですか？

A 基本的に単独投与です。①別の末梢ルートを確認する②エネフリードは投与後、ラインを交換してから他剤を投与する方法があります。

Q2中心静脈からの投与は可能ですか？

A イントラリポスは、フィルターより患者側、投与後生食20mlでフラッシュ、24時間以内ルート交換を行えば、中心静脈カテーテル側管投与は可能です。しかし、エネフリードは末梢静脈内に投与が用法に記載されているため、用法外使用になります。

【編集後記】

脂肪は最も効率の良いエネルギー源です。イントラリポスとエネフリードを適切に使用して栄養管理を行いましょ！
NST委員会 担当者名 三松(外科)・小河(3C)